

国際会議「Interface Against Pollution2008」の招聘から開催まで
On the invitation and preparation for IAP2008
<http://www.rs.noda.tus.ac.jp/iap2008/> (June 1-4,2008, Kyoto University)

足立 泰久¹, 大井 節男², 石黒宗秀³
Yasuhisa Adachi¹, Setsuo Ooi², Munehide Ishiguro³

IAP 環境の要素は水・土・大気に大別される。しかし、いずれにおいても汚染対策技術の基礎にはコロイド界面科学が密接に関与する。Interfaces Against Pollution(以下 IAP)は、この点を基軸にコロイド界面科学の環境面への展開をめざして実施されてきた国際会議である。第1回は、1997年にオランダ・ワーヘニンゲンで開催された。初回の参加者(約200名)の所属構成は基礎的な界面科学と土壌、地質、水処理、生態系、地下水、資源工学、原子力などの応用分野であり、両者の交流により、実務的視点から求められるコロイド界面科学の学際的フォーラムの構築をめざしている。IAPは、その後、ほぼ隔年の割合でハンガリー、ドイツ、スペインで各国独自に組織される委員会が外部の国際委員会から委任される形で開催されてきた。前回のグラナダ会議では、日本からの参加者が全体の15%に達し、それらを背景に2008年の日本開催が満場一致で決定された。

IAP国内委員会 IAP2008の実施を担う国内組織委員会を東京理科大学薬学部教授大島広行委員長のもと、執行部、国内学術委員、同実行委員を組織した。IAPの運営母体(主催)はIAP2008国内委員会とし、分野間の交流を図る目的から、既存の学協会からは中立独立の存在とすると同時に、農業農村工学会をはじめ関連学協会に広く協賛を呼びかけた。尚、本学会から以下の方々に委員に参加いただいた。石黒宗秀(総務)、中石克也(会計)、山下祐司(HP、庶務)、川本健(土壌物理)、川島茂人(大気環境)、中村公人(地下水)、大坪政美(土壌汚染)、小林幹佳(界面動電)、諸泉利嗣(土壌水文)。

IAP2008, Kyoto 会議の目標と目的 日本においてはIAPの関連分野が、理学、工学、農学など極めて広範に分散し、個々には長い伝統と高い水準を有していても、お互いの交流は十分なされていないために学術分野としての力を発揮するまでには至っていない。2008年の京都会議では、この現状を返上し、界面科学に基礎を置く環境技術の工学的基礎の展開の方向性を明示することによって、日本の特徴を生かした情報発信を目指した。この目標に対し、以下に目的を定めその準備を行った。

所属：1 筑波大学・大学院生命環境科学研究科 Graduate School of Life and Environmental Sci., Tsukuba Univ.

2 農村工学研究所 National Institute for Rural Eng., Department of Regional Resources

3 岡山大学・環境理工学部 Graduate school of Environmental Science, Okayama Univ.

キーワード：Interfaces Against Pollution (IAP), コロイド界面科学, 環境

(1) 世代間と分野間の交流：コロイド界面科学の蓄積を歴史的レベルから整理し，界面科学および化学工学，農業工学，資源工学，土壌学，衛生工学，原子力，触媒化学，微生物など関連する様々な分野の研究者で問題点の所在についての共通認識を形成し，多角的な討議を行う．また，討議では工学的要請が強いコロイド界面の不均一な場における非平衡的な動的扱いを強調する．

(2) 日本の地域性：戦後の経済成長を担った技術立国としての日本の産業上の特徴と，火山灰土などに代表される自然立地上の特徴をコロイド界面科学の立場から意識化する．特に環境との関係において粘土，腐植物質，炭，微生物など自然素材を積極的に取り入れた議論を模索し，さらにその混合系，ソフトマターとしての扱いを討議に盛り込む．また，IAP はこれまで，ヨーロッパを中心に行われてきたが，アジアで行う利点と重要性として，中国，台湾，韓国などの近隣諸国に参加を促す．

以上の視点から本会議のプログラムを，プレナリー講演，キーノート講演，一般講演，ポスターから構成し，また，本会議に向け各分野ごとにテーマを設定したプレセミナー（計 8 回）を関係者の協力のもと企画した．

プレセミナー 特徴ある準備活動の一環として IAP プレセミナーを計 8 回実施した．セミナー全体としては，基礎から応用に向かう構成にした．尚，第 8 回のセミナー実施に際し，農業農村工学会から援助を使用させていただいた．

- (1) 「細孔における吸着特性」2007.3.10 東京理科大学 総合研究機構界面部門シンポジウム
- (2) 「環境汚染と吸着現象」2007.6.7 京都大学 時計台記念館 IAP 国内委員会シンポジウム
- (3) 「微生物活動と界面コロイド現象」2007.8.25 筑波大学 総合研究棟 A サマースクール
「土・水・生命環境とコロイド界面現象」
- (4) 「農業土木とコロイド界面科学」2007.8.28-30 島根大学 農業土木学会大会講演会企画セッション
- (5) 「細孔における輸送特性」2007.9.20 信州大学 第 60 回コロイドおよび界面化学討論会一般シンポジウム
- (6) 「腐植物質の生物生産・土壌汚染に関わる機能解明への界面・コロイド科学的アプローチ」2007.11.9 弘前大学 第 23 回日本腐植物質学会講演会テーマ講演
- (7) 「ナノゲル多孔質体の界面および移動現象と環境」2007.11.19 東京理科大学 森戸記念館（東京都神楽坂） 日本油化学会オレオナノサイエンス部会シンポジウム
- (8) 「界面動電現象と環境」2008.2.16 筑波大学総合研究棟 A IAP 国内委員会シンポジウム

IAP 環境技術フォーラム 環境問題に対処するためには技術，学術，教育に携わる人たちが一丸になって協力し合う体制作りが必要である．その第一歩として，IAP の開催に先立ち，界面科学に関係の深い分野の企業に協力いただく形で，講演会，展示会をフォーラム形式で準備した．

ABSTRACT 投稿状況 3 月 25 日で，アブストラクトの投稿を締め切ったが，概数で国内 130，海外 70（22 カ国）の投稿を数えた．特に中国からの積極的参加が目立った．